別表１　滝沢（村）市の行政改革

（村）市長	年度	取り組み内容
柳村元村長	1998年度	情報公開実施。優良情報化団体自治大臣表彰（文書管理システム）
	1999年度	組織のフラット化（係長制廃止）
	2000年度	ISO9001･14001認証取得、セルフアセッサー養成開始（10人） 外部アセスメントに初挑戦（全庁･3課）、滝沢地域デザイン策定
	2001年度	外部アセスメント（11課）･内部アセスメント（7課）
	2002年度	組織のフラット化（部制導入･課長補佐廃止）、行政経営モデルの構築に着手、職員提案による窓口業務延長開始、人事考課制度開始、「滝沢村行政経営理念」「部のミッション･ドメイン」の制定、地域まちづくり推進委員会発足
	2003年度	組織のフラット化（収入役廃止）、「第５次滝沢村総合計画」検討開始、管理職投票制度による選考開始
	2004年度	村長方針･部課長方針展開の開始、新人事考課制度（試行）
	2005年度	「第５次滝沢村総合計画」開始（2005年度～2014年度）、滝沢地域社会に関するアンケート開始、滝沢地域ビジョン策定、自治会のあり方検討
	2006年度	総合計画･組織機構･予算との連動、日本経営品質賞受賞（地方自治体部門）
柳村前（村）市長	2008年度	滝沢村事務事業実施に関する基本原則、内部評価開始
	2009年度	「第５次滝沢村総合計画後期基本計画」策定、事務改善報告会開始
	2010年度	「第５次滝沢村総合計画後期基本計画」スタート（2010年度～2014年度）、滝沢村行政体制調査研究会（市制以降への取組開始）
	2011年度	市制準備会の新設、過去最大規模の住民フォーラムを岩手県立大で開催、自治基本条例の検討開始、新たな「部のミッションドメイン」を制定
	2012年度	住民自治フォーラム、自治体マネジメント実践会議開催、自治体経営環境診断
	2013年度	次期総合計画策定プロジェクト設置、2014年1月1日市制施行
	2015年度	「第１次滝沢市総合計画」スタート（2015年度～2022年度）

出典：熊谷和久（2014）「地域計画と行政経営の融合－滝沢市における総合計画－」
玉村雅敏監修　公益財団法人日本生産性本部編『総合計画の新潮流－自治体経営を支えるトータル･システムの構築－』p.147公人の友社
滝沢市（2015a）「第１次滝沢市総合計画　序章」『第１次滝沢市総合計画』p.8
（https://www.city.takizawa.iwate.jp/var/rev0/0048/9063/2015326131337.pdf）（最終アクセス2021年4月26日）をもとに、筆者作成

別表２　1991年以降の滝沢（村）市長選挙結果

選挙期日	投票率	候補者	得票数
1991年4月21日	75.88	沢村　秀雄	10,879
		柳村　純一	8,183
1994年11月20日	71.26	柳村　純一	5,928
		大森　軍一	5,149
		佐藤　光保	4,247
		大坪　昭一郎	2,795
		田沼　斉	2,368
		高橋　勉	418
1998年11月8日	65.73	柳村　純一	15,114
		大森　軍一	7,036
		高橋　勉	999
2002年11月10日		柳村　純一	無投票
2006年11月12日	55.78	柳村　典秀	12,737
		井上　和夫	9,857
2010年11月14日		柳村　典秀	無投票
2014年1月1日市制施行			
2014年11月16日	51.15	柳村　典秀	10,872.018
		藤原　治	5,868.000
		柳村　純一	5,361.981
2018年11月11日		主濱　了	無投票

出典：滝沢市（更新年不明）「過去の選挙結果等」
https://www.city.takizawa.iwate.jp/community/sankaku/senkyo/senkyo_kekka.html
をもとに、筆者作成。
（最終アクセス：2021年3月28日）

別表３　最適化条件･代表指標一覧

最適化条件		代表指標	めざそう値（10年後）
輝く	1 心身ともに元気で暮らせる	自分が心身ともに元気と感じている人の割合	65.0%
	2 老後の不安なく暮らせる	介護認定率	14.0%
	3 子ども達が不安なく過ごせる	児童相談所における虐待に関する相談件数	30件
	4 一人ひとりの個性が尊重されている	男女の平等観	30.0%
	5 自ら学んだり、取り組める環境がある	村が実施する趣味の教室や講座に参加するなど、自ら学ぶ機 会を持っている人の割合	40.0%
	6 高齢者が自ら率先して活躍している	シルバー人材センター加入率（60歳以上人口1,000人あたり）	20人
	7 子ども達が生き生きとしている	不登校児童・生徒の割合（児童生徒数1,000人あたり）	5.5人
	8 自分の夢の実現のために取り組むことができる	生きがいをもって生活している人の割合	75.0%
	9 みんなで地域の夢の実現のために取り組むことができる	地域まちづくり委員会の参加(委員）数	400人
交わる	10 隣り近所とのつきあいがある	隣り近所とのつきあいがある人の割合	60.0%
	11 必要な情報がわかりやすく伝わる	広報たきざわを読んでいる人の割合	90.0%
	12 家族が一緒にいられる	家族が一緒にいられる時間	5時間
	13 同じ目的を持った人との交流がある	趣味のサークル活動など共通の目的を持った人と交流している人の割合	55.0%
	14 世代間での交流がある	ここ１年で年代の違う人と交流を持った割合	65.0%
	15 地域間での交流がある	ここ１年で地域活動に参加したことのある割合	50.0%
	16 地域と学校との間で交流がある	子どもの教育について、学校、家庭、地域の連携が十分だと 感じている人の割合	45.0%
	17 必要な時に欲しい情報が得られる	普段の生活に必要な情報が伝わっていると感じている人の割 合	60.0%
	18 人々が集まり活動できる場所がある	人々が集まり活動できる場所があると感じている人の割合	70.0%
	19 地域や世代を超えて村全体がつながっている	村民体育祭・スポーツフェスティバルの参加者数	4,500人
支えあう	20 地域に安心できる防災の仕組みがある	自主防災組織設置数	20団体
	21 家族がお互いに支えあっている	１日あたりの家事労働時間の男女差	2時間
	22 ボランティア活動が活発である	滝沢村のボランティア登録団体数、滝沢村のボランティア登録者数	55団体 9,000人
	23 ボランティアやＮＰＯが情報交換する場がある	NPO法人設立数	12団体
	24 地域の中に支え合う仕組みがある	滝沢村はみんなが支えあうことで地域の課題を解決できる村だと思っている人の割合	50.0%
	25 同じ目的を持った人々が集まり活躍している	ＮＰＯ法人設立数	12団体
育む	26 安心して子育てができる	子育ての悩みや不安を相談できる人がいる（いた）人の割合	75.00%
	27 自然環境に配慮する取り組みが行われている	１日あたりのごみ排出量(住民1人あたり）	800g
	28 文化、伝統が受け継がれている	郷土芸能団体数及び会員数	6団体 220人
	29 人と自然が共存している	総合的な学習における自然保護・自然体験関連実施校数	14校
	30 文化、伝統が活かされている	郷土芸能団体数及び会員数	6団体 220人
働く	31 働く場がある	事業所数（生産年齢人口1,000人あたり）	50.0所
	32 農業の担い手がいる	農業後継者（販売農家）の有無の割合	63.5%
	33 みんなが自分のやりたい仕事ができる	事業所数（生産年齢人口1,000人あたり） 現在の仕事に満足している人の割合	50.0所 45.0%
	34 村で作られた農産物が、広く販売されている	滝沢村の地場産品をよく買っている人の割合	47.5%
	35 子育てしながらでも安心して働くことができる	保健所における待機児童の割合	1.00%
	36 村の特色を活かした産業がある	事業所数（生産年齢人口1,000人あたり）	50.0所
住む	37 村に豊かな自然がたくさん残されている	山地率	54.0%
	38 交通安全が保たれている	交通事故数（人身事故）発生件数（住民10,000人当たり）	35件
	39 水や空気がきれいである	村内 6 河川 8 ヵ所 平均 BOD 濃度 窒素酸化物濃度	1.35mg/l 0.028ppm
	40 夜間でも安心して出歩くことができる	ここ 1 年で夜間の 1 人歩きに不安を感じたことのある人の 割合	30.0%
	41 村に犯罪がない	ここ１年で犯罪にあったり、身の危険を感じたことのある人 の割合	5.0%
	42 急病の時に病院に行きやすい	地域の医療に安心感を持っている人の割合 いざという時に相談できるかかりつけ医がいる人の割合	50.0% 60.0%
	43 交通の便がよく、移動がしやすい	滝沢村内のバスや電車は便利で利用しやすいと思う人の割合 滝沢村の道路渋滞は少ないと思う人の割合	33.0% 40.0%
	44 ずっと住みたいと思える村である	自分の村に愛着を持っている人の割合	80.0%
創る	45 地場産品を売買する場所がある		
	46 チャグチャグ馬コの知名度が活かされている		
	47 「滝沢らしさ」がある		

出典：滝沢市（2006）『たきざわ地域社会報告書2006Ver.00創刊号』pp.10-11をもとに筆者作成
（https://www.city.takizawa.iwate.jp/var/rev0/0057/8348/all.pdf）（最終アクセス2021年4月25日）

別表４　幸福実感一覧表

世代（歳）	象徴世代	喜び・楽しさ	成長･学び	成長環境	安全･安心	人とのふれあい
0歳～	すこやか世代	（子どもに）みんなが笑顔で接してくれること	（子どもに）良い食習慣が身に付いていること	子どもが身近に体を動かして遊べる機会があること	親以外に、（子どもの）世話をしてくれる人がいること	（子どもが）大切に見守られていること
	象徴指標	子どもと一緒に過ごす時間（1週間）	家族一緒に食事をする回数（1週間）	子どもが屋外で過ごす時間（1時間）	子どもを安心して預けられる相手がいる親の割合	子どもが大切に育てられていると感じている 人の割合
	目標値（2022年度）	47時間30分	14.00回	15時間00分	65.0%	80.0%
6歳～	学び･成長世代	（子どもが）楽しい学校生活を過ごせる こと	（子どもが）夢中になって取り組めることがあること	地域の皆さんに（子どもが）見守られて いること	（子どもが）悩みを相談できる相手や機会を持っていること	（子どもが）積極的に地域に関わっていること
	象徴指標	仲の良い友だちの数	子どもが夢中になって取り組めることがある と感じる人の割合	子どもが安全に通学できると感じる人の割合	子どもが悩みを相談できる相手がいると感じる人の割合	（子どもが）地域行事に参加した回数
	目標値（2022年度）	10.00人	67.0%	55.0%	70.0%	4.00回
18歳～	自立世代	多くの人とのふれあいの機会があり、 人間関係が良好であること	身に付けた知識や技術を仕事や趣味 の場で活かせる機会があること	地域の皆さんと交流の機会があること	子育てに関わる集まりに参加できる機 会が多いこと	地域に仲間がいること
	象徴指標	多くの人とのふれあいの機会があり、人間関 係が良好であると感じている人の割合	身に付けた知識や技術を仕事や趣味の場 で活かせる機会があると感じる人の割合	地域のお祭りや行事に参加した回数	保育園、幼稚園、小学校などの行事へ参加 している人の割合	地域の居心地が良いと思っている人の割合
	目標値（2022年度）	55.0%	50.0%	4.00回	70.0%	75.0%
	子育て世代	子どもたちの成長を確認できること	情報時代に適応したモラル、スキルを 学び、活かす機会があること	子どもたちが地域で遊んだり、学んだりする機会に恵まれていること	安定した生活を送るための、家族の支え合いがあること	親と子どもの関係が良好であること
	象徴指標	子どもとの会話の時間（１週間）	広報やインターネットなどで、地域の情報を 収集・発信している人の割合	参加したいと思える地域行事の数	家族の支えのおかけで仕事に専念できてい ると感じる人の割合	子どもと一緒に地域活動をした回数
	目標値（2022年度）	28時間00分	25.0%	60.0%	25.0%	45.0%
50歳～	充実世代	世代を越えて交流する機会があること	自ら学び、趣味や地域活動に積極的に取り組める機会があること	豊かな自然を活かして、リフレッシュで きること	老後の生活設計が描けること	地域活動などに無理なく参加できる機会があること
	象徴指標	ここ一年で地域活動に参加した人の割合	趣味や特技を披露できる機会が地域にある 人の割合	定期的に自然と親しむ機会を持っている人 の割合	老後の生活設計に不安がない人の割合	地域活動と自分の活動を両立できていると 感じている人の割合
	目標値（2022年度）	60.0%	25.0%	60.0%	25.0%	45.0%
65歳～	円熟世代	心身ともに元気になれる趣味や活動を 通して、地域に役立つ機会があること	地域の伝統・文化や芸能など、次世代に継承できる機会があること	豊かな自然とふれあいながら、健康増進が図られる機会があること	いざという時にも、助け合える繋がりが あること	地域にお互い支え合い、助け合う仕組 みが整っていること
	象徴指標	地域に役に立つ機会を持っていると感じて いる人の割合	地域の伝統・文化や芸能などに親しむ機会 があると感じる人の割合	自分の散歩コースを持っている人の割合	いざという時に、頼れる相手がいる人の割合	地域とつながっていると感じている人の割合
	目標値（2022年度）	50.0%	45.0%	60.0%	75.0%	50.0%

全世代	世界や全国で活躍する人材を育む滝 沢市であること	チャグチャグ馬コが受け継がれている こと	岩手山麓に広がる豊かな自然が守ら れていること	滝沢市の暮らしに安心感と愛着がある こと	市民が互いに支え合いながら、幸せを 実感して暮らせること
象徴指標	芸術文化及びスポーツに関する市特別表 彰の件数（累計数）	チャグチャグ馬コの滝沢市からの参加馬数	地域清掃活動への参加者数	滝沢市に愛着がある人の割合	滝沢市で幸せに暮らしている人の割合
目標値（2022年度）	50件	40頭	24,000人	80.0%	75.0%

出典：滝沢市（2015c）「別表第１表　幸福実感一覧表」『第１次滝沢市総合計画』をもとに筆者作成
（https://www.city.takizawa.iwate.jp/var/rev0/0048/9065/2015326131421.pdf）（最終アクセス2021年4月25日）

別表５　暮らしやすさ一覧表

視点	視点が描 く「めざす まちの姿」	最適化条件	代表指標	(単位)	８年後 めざそう値
活かす	恵まれた 自然環 境を身近 に感じ、 暮らしに活かすま ち	自然環境に配慮する取組が行われている	１日当たりのごみ排出量(住民1人当たり)	g	800
		自然とふれあえる環境がある	鞍掛山登山者数	千人	27
		市に豊かな自然がたくさん残されている	豊かな自然がたくさん残っていると思う人の割合	%	83
支えあう	互いに支 えあい、 人とのふ れあいが 生活に 潤いを与 えるまち	みんなで地域の夢の実現のために取り組むことができる	地域活動に参加している人の割合	%	60.0
		隣り近所とのつきあいがある	隣り近所とのつきあいがある人の割合	%	60.0
		地域に安心できる防災の仕組みがある	自主防災組織訓練参加者数	人	6,500
			災害に強いまちだと感じている人の割合	%	50.0
		家族がお互いに支えあっている	家庭内での役割分担に満足している人の割合	%	75.0
		ボランティアやＮＰＯ活動が活発である	淹沢市のボランティア登録団体数	団体	55
		地域の中に支え合う仕組みがある	淹沢市はみんなが支えあうことで地域の課題を解決できる市だと思っている人の割合	%	55.0
		市に犯罪がない	ここ１年で犯罪にあったり、身の危険を感じたことのある人の割合	%	4.0
輝く	みんなが 健康づく りに取り 組み、一 人一人 が輝きな がら、安 心して暮 らせるまち	心身ともに元気で暮らせる	自分が心身ともに元気と感じている人の割合	%	62.0
		老後の不安なく暮らせる	老後が不安なく暮らせると感じている人の割合	%	16.0
		子ども達が不安なく暮らせる	子ども達が不安なく暮らせると感じている人の割合	%	50.0
		一人一人の個性が尊重されている	障がいがある方の社会参加が進んでいると感じている人の割合	%	50.0
		高齢者が自ら率先して活躍している	シルバー人材センター加入人数（60歳以上人口1,000人当たり）	人	20.0
		健康や介護などを学べる「場」がある	健康づくり支援者が企画した健康教室の開催回数	回	93
		かかりつけの病院がある	かかりつけ医を持っている人の割合	%	75.0
		放課後の子どもの居場所がある	放課後の子どもの居場所があると感じている人の割合	%	40.0
		安心して子育てができる	子育ての悩みや不安を相談できる人がいる（いた）人の割合	%	65
暮らす	安全で快 適な暮ら しが実感 できるよ う、みん なで取 り 組むまち	交通安全が保たれている	交通事故発生件数	件	100
		急病の時に病院に行きやすい	地域の医療に安心感を持っている人の割合	%	50.0
		交通の便がよく、移動がしやすい	市内のバスや電車は便利で利用しやすいと思っている人の割合	%	40.0
		ずっと住みたいと思える市である	淹沢市に愛着がある人の割合	%	80.0
			住民基本台帳（９月末現在）による人口	人	57,000
			淹沢市は住みやすい市だと感じている人の割合	%	80.0
			新規住宅着工数	件	100
			浸水被害件数	件	0
			水洗化率（行政区域内人口に対する合併処理浄化槽も含めた水洗化率とする）	%	82.9
			淹沢市の水道水がおいしいと感じている人の割合	%	75.0
			経営資本営業利益率（上水道/下水道）	%	1.0/-0.7
			漏水率	%	6.5
		市役所の仕事は信頼できる	総合計画を知っている人の割合	%	50.0
			淹沢市の行政サービスは良いと感じている人の割合	%	50.0
			窓口での説明がわかりやすく対応が良いと感じている人の割合	%	70.0
			実質赤字比率等の財務諸指標	%	5.0
			電子申告等の利用率	%	65.0
			固定資産評価審査委員会の容認決定件数	件	0
			一般税・目的税の収納率	%	95.5/75.0
			納期内納付の割合	%	89.0
			伝票等返却率	%	6.0
			連携事業の取組数	件	20
			事務改善報告件数	件	10
			システム安定稼働率	%	100
			職員の研修参加者数	人	345
学ぶ	子どもか ら高齢者 まで、夢 を抱き、 夢に向 かって互 いに学び あい、成 果を活か せるまち	自ら学んだり、取り組める環境がある	趣味の教室や講座に参加するなど、自ら学ぶ機会を持っている人の割合	%	31.0
			学校トイレの環境改善率	%	90.9
			体育施設の利用者数	人	15,000
		子ども達が生き生きとしている	1年間無欠席の児童生徒の割合	%	45.0
		自分の夢の実現のために取り組むことができる	夢に向かって努力している人の割合	%	70.0
		子どもたちの体力・学力が向上する	学力テスト（ＮＲＴ）で全国標準を上回った学校の割合（小学校/中学校）	%	87.5/75.0
		地域と学校との間で交流がある	子どもの教育について、学校、家庭、地域の連携があると感じている人の割合	%	45.0
			学校給食食材生産供給組合からの年間納入量	kg	10,000
		スポーツに親しむ機会がある	種目別協会の登録者数及び会員数	人	2,500
働く	雇用環 境が充 実し、み んなが安 心して生 き生きと 働けるま ち	働く場がある	法人事業所数	所	880
		農業の担い手がいる	農業後継者（販売農家）の有無の割合	%	56.0
		みんなが自分のやりたい仕事ができる	現在の仕事に満足している人の割合	%	61.0
		子育てしながらでも安心して働くことができる	子育てに対する職場の理解があると感じている人の割合	%	55.0
		市の特色を活かした産業がある	IPUイノベーションセンター・パークへの立地件数	件	29
			セミナー、フォーラム等の交流事業の回数	回	124
		地場産品が広く販売されている	淹沢市の地場産品をよく買っている人の割合	%	50.0
受け継ぐ	次世代 に伝統と 文化を受 け継ぎ、 ふるさと に愛着を 持てるまち	文化、伝統が受け継がれている	郷土芸能団体数及び会員数	団体 人	6団体 130人
		文化、伝統や芸術に親しむ機会がある	淹沢市芸術祭・郷土芸能まつりの入場者数	人	1,450
		チャグチャグ馬コの知名度が活かされている	チャグチャグ馬コの入込客数	千人	31
集う	地域と世 代を超え て集い、 人との関 わりに幸 せを実 感 して地域 づくりが できるま ち	必要な情報がわかりやすく伝わる	広報たきざわを読んでいる人の割合	%	82.0
		同じ目的を持った人との交流がある	人々が集まり活動できる「場」があると感じている人の割合	%	50.0
		地域間での交流がある	ここ１年で、淹沢市内で、自分の住んでいる地域以外の行事に参加したことがある人の割合	%	33.0
		必要な時に欲しい情報が得られる	普段の生活に必要な情報が伝わっていると感じている人の割合	%	60.0
		人々が集まり活動できる場所がある	人々が集まり活動できる場所があると感じている人の割合	%	45.0
		地域や世代を超えて市全体がつながっている	市民体育祭・スポーツフェスティバルの参加者数	人	3,300

出典：淹沢市（2015d）「別表第２表　暮らしやすさ一覧表」『第１次淹沢市総合計画』をもとに筆者作成
（https://www.city.takizawa.iwate.jp/var/rev0/0048/9066/2015326131437.pdf）（最終アクセス2021年4月29日）